

令和2年度

# 学校研究成果報告書





# はじめに

本校は、平成30年度より文部科学省「特別支援教育に関する実践研究充実事業」における新学習指導要領施行に向けた実践研究を行ってきました。研究課題は「社会との接続を意識し、子供たちが、社会的・職業的自立に向けた主体的・対話的で深い学びの実現」です。この研究は3年間の中で継続した目的のもと取り組むものであり、今年度は、最終年度となります。

本研究に取り組むための目的は、次の2点となります。

- 地域・人との関わりを通して、児童生徒が学ぶ楽しさ、伝え合う喜びを経験できる授業づくりを検討する。
- 交流学習、地域学校協働学習を推進する。



児童生徒が地域や人と関わる機会を積極的に持つことで、その様々な関わりから自らが「学び」に興味関心を抱き、「学んだこと」を色々な人に伝え、様々なことに関連付けて自らの知識や経験を広めていく力を育成するための取り組みです。

## 今年度の学校研究テーマは

本校が過去に行ってきたキャリア教育研究では「キャリア発達とは子どもたちが経験を通して、自分や自分に関係性のある全ての事象に対する知識や認識を、より現実に即して新たにしていくこと。そして、その営みを繰り返しながら自分らしい生き方を実現していくこと」という成果を得ました。この成果をもとに「子どもたちは、様々な地域・人との関わりから、そして、様々な役割から色々なことを学んだり、また、その学んだことを伝え合ったりしながら成長していく」と考え、「地域・人」「関わり」「学ぶこと」「伝え合うこと」、そして、それらが「つながり合う」ことの5つのキーワードを大切にした「授業づくり」を学校研究のテーマとしました。

### 【 学校研究テーマ 】

## 地域・人との関わりを通して、学ぶ楽しさ、伝え合う喜びを育む授業づくり

大切にしたい「つけたい力」

子どもたちが成長していく中で「何ができるようになるのか」ということを各学部の教師が話し合い、子どもの視点に立って「つけたい力」を各学部で決めました。この目標をもとに子どもたちが地域・人との関わりを通して、学ぶ楽しさを感じ、それを伝え合うことで喜びを感じる授業づくりを行いました。以下は各学部でのつけたい力です。

小学部

自己

共に学び、  
自分を表現する力

中学部

他者

学んだことを通して、  
相手に発信する・  
はたらきかける力

高等部

社会

卒業後に活かせる  
コミュニケーション力





# 子どもの育ちを丁寧に見取る授業実践

小学部の  
実践

## 「自分を表現する力」の育成

小学部では、3年間、児童につけたい力を「共に学び、自分を表現する力」と一貫して設定し、授業づくりに取り組んできました。今年度は、①児童が自分たちで考えたり役割を担ったりして物事を作り上げる、②身の回りの人々と関わる、③年間を通した学びのつながりを意識するの3点を大切に、「お祭り」を主題とし、学部全体で取り組みました。上級生はお店屋さんとして下級生をもてなしたり、神輿をかついで雰囲気盛り上げたりしました。そして下級生は、上級生の姿を見て「自分もしてみたい」「一緒にしたい」という気持ち

が生まれ「お祭り」を通して、学部全体での「学びの一体感」が生まれました。この取り組みの中で他者とのつながりや生

活とのつながり、あるいは地域とのつながりを実感したり体感したりすることができました。そのことが、学びをより充実したものと、そして、子どもたちの内面の育ちをもたらし、ひいては小学部のつけたい力である「自分を表現する力」の獲得に繋がりました。



中学部の  
実践

## 「相手に発信する・はたらきかける力」の育成

中学部では「学んだことを通して相手に発信する・はたらきかける力」の育成を目指し、今年度は3つのグループに分かれて学習を進めました。「乗り物グループ」では、バス会社の人々との関わりを通して地域を走るバスのデザインや構造、役割などについて学び、より本物に近いバスの模型ができるように試行錯誤しました。「店グループ」では、コロナ禍で不況となっている観光地の店舗を救うため、チラシ制作や商品の受注、配達を自分たちで行うことで地域のお店の情報や魅力を発信しました。

「寺・坂グループ」では、ポスターやクイズ、新聞などさまざまな方法を使いながら自分たちが集めた情報を多くの人に向けて発信をおこなったり双方向のやりとりをめざして質問ボックスの設置を行ったりして、昨年の経験を活かして多くの人に伝えるための工夫をしました。各グループとも仲間と協力しながら課題の解決に取り組む中で、それぞれの生徒が「伝えたい」という思いを持ち、「どうしたら伝わるか」を考え、自分なりに工夫して発信しようとする姿が見られました。





高等部では「卒業後に活かせるコミュニケーション力」をテーマとして学習活動を展開してきました。私たち高等部が目指す「コミュニケーション力」とは、自分や他者を知るための力であり、また、生活の中で主体的に他者との関わりを持つとする姿勢でもあります。そのため、生徒同士や地域の方々と学び合う学習活動を取り入れてきました。

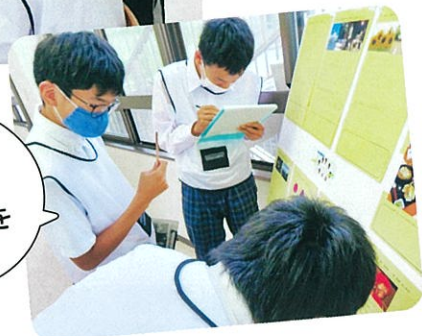
新しい生活様式について話し合う

今年はコロナウイルス感染症の影響により生活様式が大きく変わりました。生徒たちは、生活様式が変わっていく中で、「自分にとってより良い生活様式とは、どのようなものか？」をテーマに友だちの生活様式について調査し、数多くの人と話し合いながら「自分にとっての最適解＝(自分にとっての新しい生活様式)」を求めていきました。そして、その学んだ知識は、自分たちだけの知識とはせず、味噌蔵地区の方々へ新聞という形で紹介することができました。

新しい生活様式について探る



友達の夏休みの過ごし方を知る



## 終わりに

文部科学省「特別支援教育に関する実践研究充実事業」を受託して、新学習指導要領施行に向けた学校研究は最終年度となりました。この学校研究は、子どもの視点に立って「何ができるようになるのか」について考え、その力を付けるためには「何を学ぶのか」、「どのように学ぶか」ということを教師が考え、日々の授業実践を行っていくものです。

この3年間、児童生徒が「何ができるようになるのか」について教師は日々考え、具体的に「つきたい力」という目標を学部ごとに考え、その力の育成のために日々繰り返し学習活動を行い、そして、その学習活動を行った後、児童生徒には、「つきたい力」が備わっているのかを的確に把握するための学習評価について研究を行ってきました。

今回の学校研究は今年で終了とはなりますが、日々教育活動を行っていく中で課題は尽きないものです。今後とも「主体的で対話的な深い学び」を繰り返し行いながら、学習指導要領の中で述べてある育成すべき3つの資質・能力の育成に励んでいきたいと思っております。

保護者の皆様におかれましては、これからも本校の研究活動にご理解とご協力をお願い申し上げます。

大学の附属学校である本校は、教育実践研究を行い、その成果を広く発信していくことが求められています。保護者の皆様には、この学校研究成果報告書をご一読いただき、本校の教育実践や研究活動に一層のご理解を賜り、ご協力をお願い申し上げます。

## 令和2年度 学校研究成果報告書(保護者用)

発行 令和3年2月26日  
 発行者 金沢大学人間社会学域学校教育学類附属特別支援学校  
 校長 山本 仁  
 〒920-0933 石川県金沢市東兼六町2番10号  
 TEL (076)263-5551 FAX (076)264-2275  
<http://partner.ed.kanazawa-u.ac.jp/futoku/>  
 印刷所 株式会社橋本確文堂